

み お つ く し (漣標)

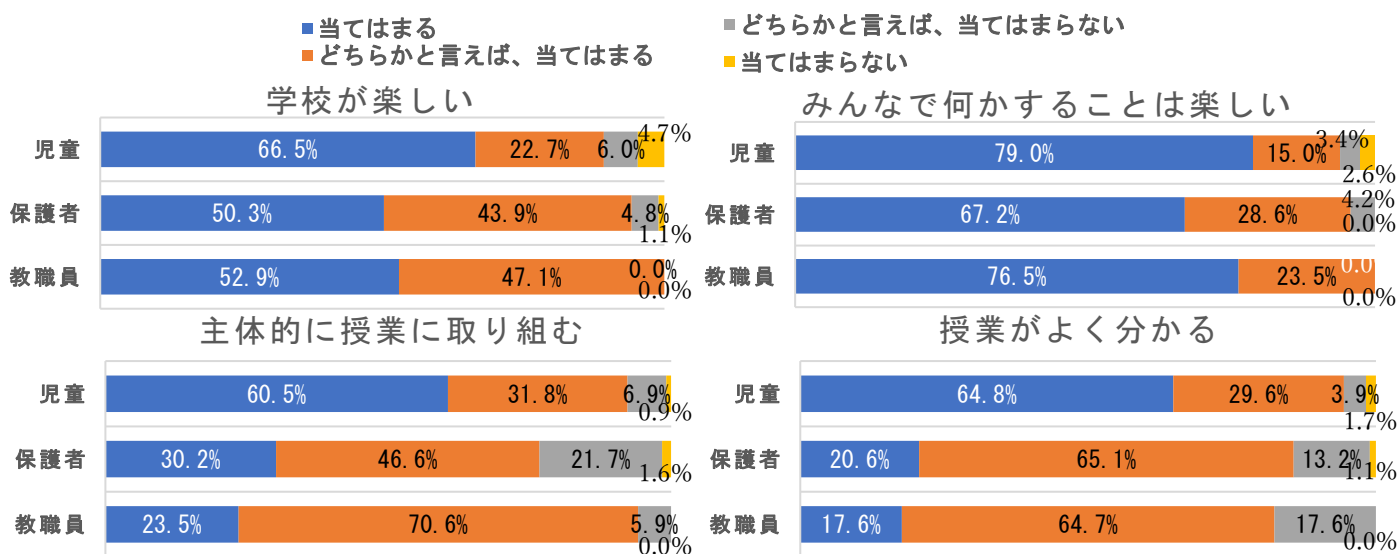
漣標：みおつくしとは・港湾に立てられた船の航路を指し示す道しるべのこと。
子どもたちの生き方の方向性を指し示すことにつながっています。

本校では、「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」「授業がよく分かる」「授業に主体的に取り組んでいる」の4つの観点で、「魅力ある学校づくり」をめざし、「そう思う」と回答する児童・保護者・教師の割合に注目し、教育活動を行っています。

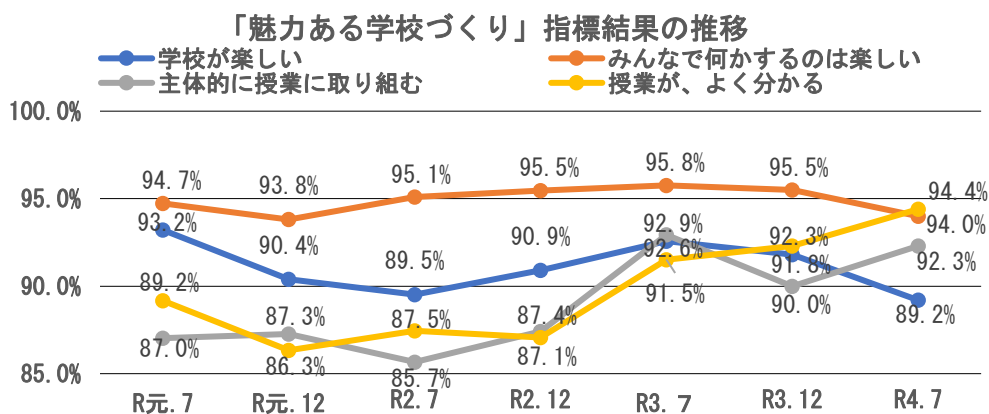
7月に行った学校評価アンケートも「魅力ある学校づくり」を元にまとめました。アンケートを参考に、結果を今後の教育活動に生かしていきます。御協力ありがとうございました。

1 「魅力ある学校づくり」のための指標から

(1) 令和4年7月のアンケート結果



(2) 令和元年からの「児童」の肯定値の推移



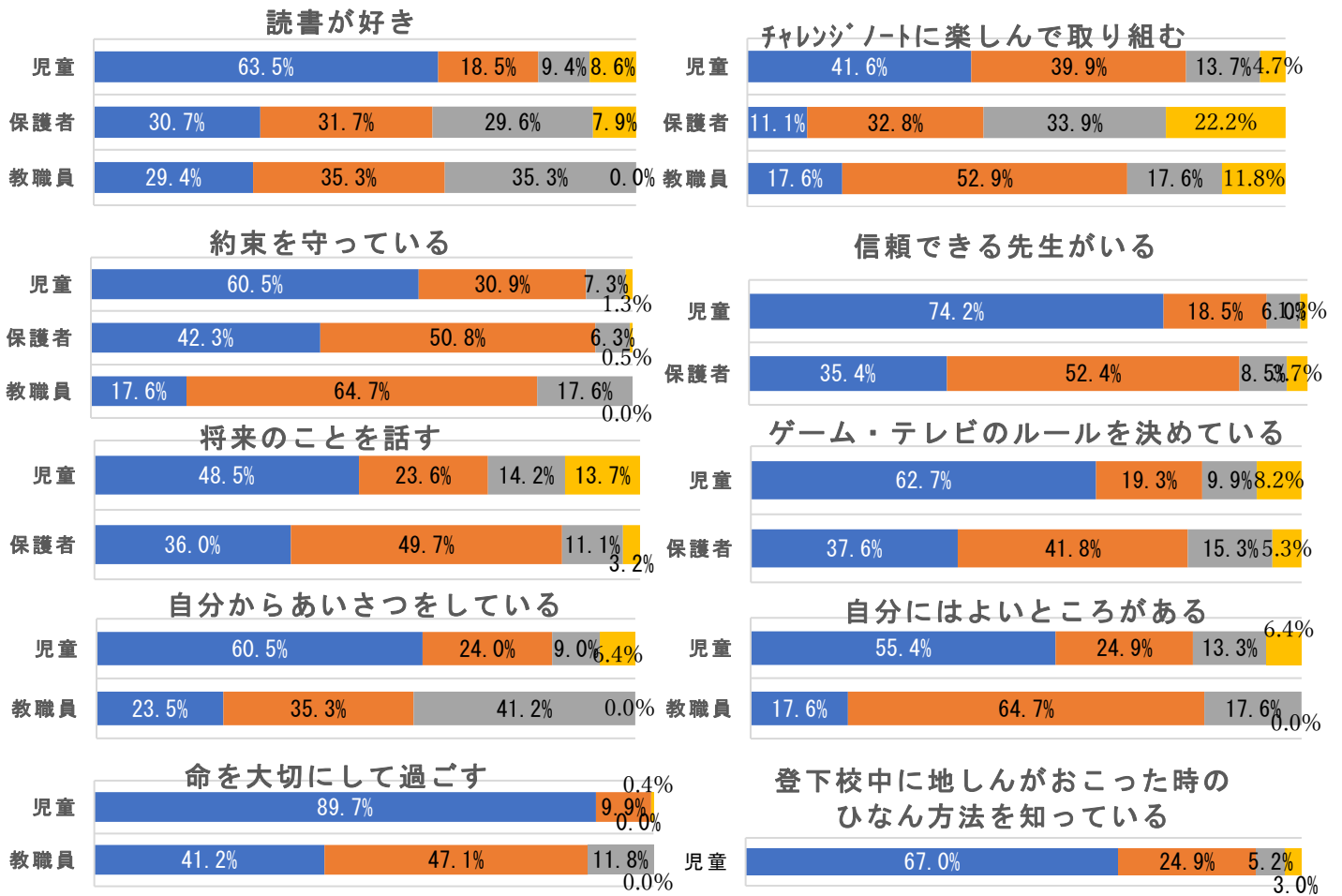
○児童の「みんなで何かすることは楽しい」の肯定率がここ近年9割を超え、高い値で推移している。仲間と活動することに楽しみを見出している児童が多い。今後も、共同して活動することや学習することが楽しいと感じることができる活動を学習や特別活動の中に取り入れていく。

○児童の「授業がよく分かる」の肯定率が94.4%と、ここ近年で一番高い肯定率となっている。しかし、児童の認識と保護者・教職員の認識とに1割程度差があるので、その差が埋まるよう授業改善や家庭学習の取組の改善に努め、児童も保護者も教職員も授業の内容を理解していると感じられるようにする。

2 その他の調査項目の結果

※肯定率…「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した率

■ 当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない



- 児童の「読書が好き」の肯定率が82%となった。(令和元年12月からの推移をみても1番高い値である。)
- 児童の「自分からあいさつしている」の肯定率が84.5%と高い。
- 児童の「チャレンジノートに楽しんで取り組んでいる」の肯定率が81.5%であった。(令和3年12月に比べ1割強上昇した。)主体的に取り組むことを目指しているチャレンジノートは、児童の意欲付けになる家庭学習であると考えられる。

3 今後の取組

◆ (目標を達成している)「学校が楽しい」、「授業がよく分かる」の割合の一層の向上を目指す。

➡ 昨年度7月期の課題「授業がよく分かる」「授業に主体的に取り組んでいる」の割合は上昇した。授業毎に理解した内容を確認する「まとめ」や何ができるようになったか確認する「振り返り」の時間を確保してきたことに効果があったと考えられる。今後も「分かる授業」を目指し、教職員全体で授業改善に取り組んでいく。また、学習の基本となる漢字の習得や計算力の向上のために、学習アプリ「Navima」を効果的に活用するとともに、漢字・算数検定を活用しながら、主体的な取組につながる手立てを取り、児童に目標を持たせたり、継続的に取り組ませたりして達成感を味わわせるようにしていく。

学びの充実を目指すことを通して、「学校が楽しい」の実感度を上げていく。